

神奈川県地方創生推進会議 総合戦略推進評価部会（基本目標 2、4）議事録

名 称：平成 29 年度 神奈川県地方創生推進会議 総合戦略推進評価部会（基本目標 2、4）

開 催 日 時：平成 29 年 8 月 2 日（水曜日） 18 時 00 分から 20 時 00 分まで

開 催 場 所：県庁 本庁舎 3 階 大会議場

出 席 者：◎牛山久仁彦、柏木京子、ジギャン・クマル・タパ、関ふ佐子、富山英輔、平位武、蓑宮武夫、山崎哲雄、林田真秀〔計 9 名〕（順不同）（◎は部長）

次回開催予定日：未定

問 合 せ 先：政策局政策部総合政策課計画グループ 加藤宏翼
電 話 (045)210-3064（直通）
ファクシミリ (045)210-8819

経過：

1 開会

- **中島総合政策課副課長：**ただ今より、平成 29 年度神奈川県地方創生推進会議 総合戦略推進評価部会（基本目標 2、4）を開催させていただきます。総合政策課副課長の中島でございます。本日はご多忙のところ、ご出席いただきましてありがとうございます。当部会は原則公開となっておりますので、ご承知ください。

（中島総合政策課副課長から配布資料の確認）

- **中島総合政策課副課長：**また、本日ご出席いただいております、蓑宮委員がご執筆された著書も配布しております。蓑宮委員は県西地域の小田原市を拠点とし、地方創生に取り組まれています。この最新作は地方創生に主眼を置かれていることから、委員の皆様へご提供いただいたものです。それでは、会議に先立ちまして、政策部長の平井よりご挨拶させていただきます。
- **平井政策部長：**政策部長の平井でございます。委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、また、夜分にも関わらず、ご出席賜り誠にありがとうございます。本来でしたら、九都県市で取組んでおります、ワークライフバランスの実現のためノー残業デーですが、本日の開催となり恐縮でございます。昨年度から皆様をお願いしております「神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の前年度の取組みについて引続き、忌憚の無いご意見をいただきたく、よろしく願いいたします。取組みは策定から数えて 3 年目ですが、昨年 1 年間の県の取組みについて原案を提示しておりますので、ご意見いただきたいと思います。例えば、昨年度も議論になりましたが K P I について、当初策定したもののだけで良かったのかというご意見を頂戴し、受け止めさせていただき、本年 3 月に K P I 追加の改訂を行いました。少しでも精度の高い、また、県民に対しても分かりやすいように結果をまとめてまいりたいと思いますので、皆様のお力

添えを何卒よろしくお願ひいたします。本日の部会におきましても昨年同様に、基本目標ごとに分けさせていただきます、別日程にて基本目標（1、3）についての部会も開催し、今後として秋頃に全体会議の開催を予定しております。

- 中島総合政策課副課長：ありがとうございました。平井部長ですが、所用のため退席させていただきます。それでは議題に入ります。総合政策課長の杉山からご説明させていただきます。

2 議事

議題1 部会の設置について

- 杉山総合政策課長：総合政策課長の杉山でございます。

(杉山総合政策課長から資料1-1について説明)

- 杉山総合政策課長：それでは、ここからは牛山部会長、議事進行をお願いいたします。

議題2 「神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略 2016年度評価報告書(案)」について

- 牛山部会長：本日もご審議の程、よろしくお願ひいたします。議事に入る前に、委員の改選についてご説明いたします。本推進会議の委員の任期は2年間で、今年4月に初めての改選を行いました。継続された委員も多くいらっしゃいますが、改選された委員をご紹介します。本日、ご出席いただいている中では、公募委員の林田真秀委員です。
- 林田委員：私は相模原市に住んでおり、東京に勤務しております。この推進会議について、広報で知り、公募させていただきました。今までの議論の経緯やお考えなど、完全には理解出来ていないところもございますが、感じた点や市民・県民としての意見を述べさせていただきます。どうぞ、よろしくお願ひいたします。
- 牛山部会長：よろしくお願ひいたします。続いて、資料1-1の裏面をご覧ください。本日欠席、またはもう1つの部会の委員をお願いしております中では、
 - ・小田急電鉄(株)執行役員交通企画部長 立山委員
 - ・神奈川県労働局長 姉崎委員
 - ・(株)ワーク・ライフバランス パートナーコンサルタント 大塚委員
 - ・神奈川県農協青壮年部協議会参与 小川委員
 - ・(株)横浜銀行代表取締役常務執行役員 野澤委員
 - ・公募委員 末永委員が新たに委員にご就任いただいております。2年間よろしくお願ひいたします。では、議事に入りたいと思います。昨年度、平成28年8月に評価部会を開催し、同年10月の推進会議において、2015年度の取組みについて評価を確定しました。また、よ

りの確な評価を行い、地方創生の取組みをさらに効果的に進めていくため、県民の皆様に進捗状況をよりわかりやすく示すためにも、必要に応じて指標を追加する必要があるとし、平成 29 年 1 月の推進会議において、総合戦略への K P I 追加について、議論し平成 29 年 3 月に改訂を行いました。今年度も、総合戦略の進行管理、地方創生推進交付金及び加速化交付金事業の評価にあたり、実施した施策・事業や K P I を踏まえた県の一次評価をお示しいただくことになっております。それでは、事務局より、部会の進め方、及び、基本目標 2 についてご説明及び報告いただきます。

(杉山総合政策課長から総合戦略推進評価部会の進め方、資料 2～3 の基本目標 2 部分について説明)

- **牛山部会長**：ただいまの説明にもとづいて、基本目標 2 についての議論に入りたいと思います。委員の皆様からご意見、ご質問をいただきたいと思います。
- **蓑宮委員**：29 ページの「ロボット体験キャラバン」ですが、頑張っているなと思っています。先日も神奈川テレビの「神奈川ビジネス Up To Date」というテレビ番組で取り上げられていましたが、もっと disclose (開示) していくと興味を持ってもらえるのではなかとと思います。神奈川テレビとよく連携して、おもしろいことをやっているなと思ったのですが、いかがでしょうか。
- **杉山総合政策課長**：番組で取り上げていただき、ありがたいと思っています。ご指摘の通り、ロボットに関する取組みをもっと広く知っていただく工夫が必要と思います。県ではさがみロボット産業特区で取組みを進め、現在、辻堂にある湘南ロボケアセンターで皆様に発信していますが、もっと様々なイベントやメディアを活用しながら、ロボット特区で得た成果を県民の皆様に、さらにわかりやすく発信していく必要があると思います。
- **蓑宮委員**：J:COM などとも連携して、扱ってもらうのが大事なかなと思います。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。ロボットの取組みは、一方で、29 ページの K P I 「生活支援ロボットの導入施設」の達成率が 54% というのは、目標達成という観点では少し低いかなと思いますが、この点はいかがでしょう。「概ね順調」でよろしいでしょうか。
- **杉山課長**：ロボットの導入施設数について、54% であるという点についてはしっかりと受け止めて、次への展開に臨んでいきたいと思います。ただ、ロボットに関する取組み全体を見ますと、もうひとつの K P I である「生活支援ロボットを体験する取組みに参加した人数」では多くの人たちがロボットに触れたいという気持ちを持っていたり、キャラバンを実施したりしておりますし、実証実験も実施させていただきました。そういったところも含めて全体として見ますと、「概ね」のレベルでは

ありますが、順調に進んでいるとは思いますが。ただ、この 54%という数字は真摯に受け止めながら、ロボットを開発してもそれを社会に実装していかないと意味がないので、関係部局とも相談しながら、こういった取組みをしていくともっと多くの施設に受け入れられるのか、考えていきたいと思えます。

- **牛山部会長**：ありがとうございます。K P I 2項目中1項目で目標を達成しているということで、「概ね順調」という評価になっていますが、今の蓑宮委員のお話しにもありましたように、理解が深まっているけれども、さらにそれを導入していく具体的な方策については少し課題があるということだと思います。他の委員の方いかがでしょうか。
- **平位委員**：33 ページですが、K P I が2項目ともまだ把握できていない中で、どのように評価をされたのでしょうか。
- **杉山総合政策課長**：三浦半島地域の取組みは、昨年度は「三浦半島まるごと食堂」や「ENJOY 海 KANAGAWA」などのイベントを通じて、多くの人たちをお呼びすることができました。併せて、宿泊型の観光に力を入れて取り組んできて、そういったことに少しずつ反応が出てきている状況です。まだ十分ではないと思えますが、交付金を使った事業やイベントの開催を踏まえて評価いたしまして、「やや遅れている」という状況ではないだろうということで、こうした評価にしています。
- **平位委員**：定性的なことを含めて判断したということですね。わかりました。
- **牛山部会長**：確かに、実績値もないのに「概ね順調」というのはどうかという疑問はあるわけですが、県ではそういう状況であると認識されているということですから、逆に委員の方から「いや遅れているのではないか」というご意見があれば教えていただきたいと思えます。
- **山崎委員**：補足させていただきます。「ENJOY 海 KANAGAWA」は私どもリビエラリゾートが主体となって行っていますが、最終のヨットレースの表彰式パーティに加山雄三さんがコンサートを行うということで、これまでになく相模湾にヨット愛好家が集まっています。また、これまでになくメディアにも取り上げられており、相模湾が注目されてきているということを実感しています。実測値はないのでしょうけれど、現地ではそうした実感を持っているということです。宿泊施設に関してはまだまだなのですが、例えば京急さんが観音崎でグランピングをされていて、私どももカタマランヨットを使ったグランピングを提案しておりますが、ベトナムや中国などインバウンドの方からのお問い合わせが非常に多くなっており、通常のホテル型の宿泊とは違うコンテンツが、三浦半島の中で生まれていることを実感しています。ですから、正に「概ね順調」だと感じています。

- **牛山部会長**：ありがとうございます。そういった実感、実際の間を見ていただいて、K P Iの実績値は未把握ですが、こうした評価になっているのかと思います。
- **菱宮委員**：テニスの錦織選手が食べたいと言って話題になったノドグロという魚がありますが、小田原では（全国的には）赤ムツと呼んでいて、全然見向きもされませんでした。ネーミング一つ変えただけで、あんなにネームバリューがあがる訳です。そういったところ、相模湾には何千種類もの魚がいますから、何かブランディング戦略が必要かもしれません。
- **牛山部会長**：そういった点も含めて、地域資源を掘り起こしていくということですね。他の委員の方はいかがでしょうか。
- **タパ委員**：30 ページの「観光プロモーションの推進」について、「順調に進んでいます」とされているのは良いと思いますが、課題について。ここにはラグビーのことなど色々と書かれていますが、日本国内に外国人はたくさん住んでいますので、プロモーション先として在住外国人を意識したほうが良いと感じます。在住外国人が週末どこに遊びに行こうかということもありますが、親族訪問の短期ビザというものもあるように、住んでいる人を訪ねて家族や親族など色々な人が外国から訪ねてきます。神奈川県は東京からも近いですし、自然もありますから、もう少しプロモーション先として在住外国人を検討したら良いと思います。また、日本国内で自分たちが作った動画を配信するのも良いですが、外国人がよく見る英語や中国語のサイトが既にありますので、そういったサイトや、あるいは口コミサイトなど、外国人の方たちがよくアクセスするところにこちらの作ったものを配信していくという方法が、ここに書かれている課題の克服につながるのではないかと思います。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。事務局はいかがですか。
- **杉山総合政策課長**：貴重なご意見をありがとうございます。関係部局に伝え、よりターゲットを広げて多くの方にいらしていただけるような取組みをしていきたいと思えます。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。他の委員の方は、何かご意見ございますか。
- **富山委員**：35 ページの「マグカルの推進」について、私もポスターやコンビニエンスストアに置かれているチラシなどを見て、面白い取組みだと感じていましたが、ターゲットというか、分野が少し狭いのかなと思っています。コンビニエンスストアなどはとても幅広い方たちがいらっしゃるの、若い人たちのためのものから年配の方のためのもの、そのあたりの選択の基準をどうしていくか、それを上手にやるととても良い取組みになると感じました。

- **牛山部会長**：このマグカルについては、皆様からもよくご意見をいただき、理解が進んでいるのかといったことが話題になります。K P I の目標値を達成しているため「概ね順調です」と評価されていますが、マグカルの周知や県民理解といったところはどうなっているのでしょうか。
- **杉山総合政策課長**：マグカルにつきましては、やはり全県展開が十分できていない、途上であると受け止めています。今ご意見いただいたような、例えばターゲットをどのようにしていくのか、それに対して有効なプロモートの仕方を選択する、といったことは重要だと考えています。県はマグカルにずっと取り組んできましたが、海外からいらした方や国内の観光客の方に楽しんでいただくためには、より多くの方に知っていただく必要がありますので、関係部局にも伝えて、より良い展開ができるように進めていきたいと思えます。
- **蓑宮委員**：小田原や県西地域には伝統文化が結構多いのですが、後継者難です。先日、京都の祇園祭に行って驚いたのですが、京都産業大学の学生が大勢参加していて、アルバイトかと聞きましたら、講義の一環で単位が取れるのだと言っていました。こういった切り口は、若い人が伝統芸能に関わる取っ掛かりになって良いのではないかと感じました。私はマグカルについては、非常に大事だと思います。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。ご意見として参考にさせていただければと思います。
- **関委員**：交付金事業について、交付金の額と事業の評価の関係がどうなのか、投入した額に見合った効果かどうかという観点からの評価はどうかということをお伺いしたいです。また、交付金事業以外の取組みには県独自の予算を使っていると思いますが、そちらについてもお金を使った分だけ順調に進んでいるのかどうか、それを測るのは非常に難しいと思いますが、感触といったもので構いませんのでお伺いできると把握しやすいと思うのですが、いかがでしょうか。
- **杉山総合政策課長**：地方創生推進交付金については、地域再生法ができて明確化された中で、国の示す条件があり、いわゆる地方創生五原則などに沿った形で、より地域が自律的に、将来自走していけるような、そういった結果が出るようなお金の使い方をしてくださいと国に言われています。そのような中で、投入されたお金が有効に使われたかどうかを測る指標として、それぞれにK P I を作っています。K P I が全体として目標を達成していることが重要と捉えておまして、国も、単に県が取り組んで終わりではなくて、皆様のような第三者の立場から見ていただいて評価をしてもらいたいとしています。ですから、まず、K P I が達成されていることが非常に重要だと考えています。それをどのように金額の多寡で測っていくのかは、事業を展開するにあたって対象事業の大きさによるものと考えておまして、例えば観光では、ある程度のお金を投入しないとプロモーション等ができません。そうでないものについて

はできる限り効率的に実施するということで、我々としても予算の査定をしながら投入額を決めております。こういったものは、国の要綱等に沿った形で採択される事業を展開していますので、それ以外の部分で地方創生に資する事業について一般財源で取り組んでいるものもあります。

- **関委員**：費用対効果については、K P I 以外には効果を評価しにくい、県の感触というものは伝えにくいということでしょうか。
- **杉山総合政策課長**：例えば観光関係の事業であれば、現時点で数値が出ていないものがありますが、観光客の消費額が出てくれば投入した金額のひとつの表れと考えられますし、お金で評価できない部分、例えば入込観光客数は人数なのでお金には換算できないものではあると思いますが、それは目標を立ててそれを達成できているということが一つの指標になると受け止めています。
- **牛山部会長**：他にはいかがでしょうか。
- **林田委員**：2つの質問とお願いです。1つは、K P I になっている各地域の入込観光客数が今年の11月把握予定となっているものが多いのですが、どうしてなのかということ。もう1つは、その一方で25ページの県全体の入込観光客数は数値が出ているのはなぜかということ、これが質問です。そして、やはり25ページの三浦半島地域の社会増減数、県西地域の社会増減数、それぞれ改善してきているということはわかるのですが、人口ビジョンなどでさらに細かく年齢階級別や地域別の転出入データとして2014年のデータが記載されているように、2016年の実績についても具体的に何歳の方々が増えたのかとか、転出が逆に減ったのかとか、今すぐには無理かもしれませんが、教えていただければと思います。
- **牛山部会長**：ご質問をいただいた点について、事務局からいかがでしょうか。
- **杉山総合政策課長**：まずご質問いただいた点として入込観光客数が全体のところで分かるのに個別のところで分からないのかという点ですが、全体の数字は速報として把握できるのですが、それを地域ごとに区分するには作業を行う必要があります、さらに、例えばシープロジェクトですと、地域を分けながら市町村ごとに集計をしていく関係があるものですから、すぐに地域ごとの数字をお示しできないということです。三浦半島地域・県西地域の社会増減数の内訳が具体的にどういった状況になっているかについては、今、資料の手持ちがないものですから、全体会の時には資料を揃えてご提供させていただきたいと思います。
- **平位委員**：先ほど関委員もおっしゃっていた交付金の話ですが、例えば基本目標2(4)①「県西地域活性化プロジェクトの推進」のところに地方創生加速化交付金として7,700万円と記載されています。K P I が良ければ、交付金も有効に活用された

ということになるのですが、このお金が具体的にどんなふうに使われたのかということを書かなくてもよいのでしょうか。お金を何に使ったのか、例えば「未病いやしの里構築事業」とありますが、どんなことをしてお金を使ったのか。金額が少なければまた別ですが、8,000万円だとか5,000万円だとかある場合には、何か記載があったほうがわかりやすいのではないのでしょうか。

○ **杉山総合政策課長**：昨年度もこのような形でお示しさせていただいたところなのですが、具体には当然7,790万円の積算というものがありますし、使い道があります。そこにつきましても、今ご指摘がありましたので、今後、全体の推進会議の際に内訳をお示しさせていただけるように考えてまいります。

○ **牛山部会長**：様々なご意見を頂戴いたしました。基本目標2の中で、小柱ごとに順調というものが4つ、概ね順調というものが7つございます。今いただきました皆様のご意見としては評価を変更すべきであるというものはございませんでしたので、「概ね順調に進んでいる」という二次評価とさせていただきたいと思っております。小柱毎につきましても様々なご意見いただき、例えばロボットの部分では、県民への広報は進んでいるが、実用化には至っていないのではないかと。周知を踏まえて活用段階に移行していただきたい。また、マグカルについては、前向きなご意見いただきまして、目標値も達成していますが、ただ、より県民理解が進むように取り組んでいただきたいなど、事務局と相談し、整理の上、評価報告書に記載してまいりたいと思っております。交付金について、それぞれKPIが達成していて、交付金の使われ方について様々なご意見も頂戴いたしました。中身やどういったところに使われているのかといったご意見でしたが、有効では無かったというご意見はありませんでしたので、一次評価のとおり有効であったとしたいと思います。よろしいでしょうか。

○ **全委員**：異議なし。

○ **牛山部会長**：ありがとうございます。続きまして基本目標4に移らせていただきます。まず事務局から説明をお願いします。

(杉山総合政策課長から資料2～3の基本目標4部分について説明)

○ **牛山部会長**：ありがとうございました。こちらにつきましても、皆様からご意見いただきたいと思っております。私から1点よろしいでしょうか。地方創生加速化交付金の基本目標4のところの再掲ですが、上に記載のある基本目標3の加速化交付金と共通だということですね。

○ **杉山総合政策課長**：そのとおりです。

○ **牛山部会長**：金額はそれぞれに使われているのですか。

- **杉山総合政策課長**：こちらについては、ほぼ似たような取組みで、基本目標3で働き方改革を行っていて、また基本目標4でシルバーに対する様々な取組みを行っています。本質的な部分では類似している部分があり、7,400万円が投入されているということになっています。
- **牛山部会長**：そうすると、県の目標としては分かれているけれども、交付金としては一本で出ているということですね。
- **杉山総合政策課長**：ただ、この事業を実施するにあたって、基本目標3に相当するKPI部分と、基本目標4に相当するKPIがそれぞれあるものですから、3のほうに金額を書かせていただいて、4のところに「再掲」と書かせていただいた上で、4に相当する部分のKPIをそれぞれ記載させていただいたということす。
- **牛山部会長**：対応するKPIとの関係で分けて記載するということですね。ありがとうございました。皆様いかがでしょうか。
- **蓑宮委員**：54ページに記載のあるバリアフリーについてです。私は小田原に住んでいるのですが、道路に段差があったりして、ハンディキャップのある方が車いすで安心して移動できる道などはほとんどありません。健康な高齢者であっても段差に躓いて、骨を折ってしまい寝たきりになるという話はよく聞きますし、水はけをよくするために取り付けられている金属の格子も雨が降ると滑って非常に危険です。本気で対応を考えていく必要があるのではないのでしょうか。みなさんそういう話はよくされますが、実際問題として、小田原には段差が一つもない道路なんてありません。行政の人たちは、実際に車いすで移動したことがあるのでしょうか。全部一度にとというのは無理でしょうが、せっかくこの総合戦略にバリアフリーのまちづくりの推進という切り口があるので、どこかにそのようなモデルルートを作ってはいかがでしょうか。パラリンピックがあることも考えると、ここからここまでは段差がないというように、どこかで徹底してやってみたら素晴らしいものとなるのではないかと思います。バリアフリーを進めていこうという掛け声は聞きますが、実際にそこまで配慮した道路はあまりないと思います。徹底的にやることで、切り口が非常に明確になりますし、これからの時代に必要な部分だと思いますので大いに期待します。
- **牛山部会長**：ありがとうございました。事務局お願いします。
- **杉山総合政策課長**：重要なことだと認識しておりますが、予算も相当必要になってきます。そういう中でどういったことが可能なのかということで、関係部局にはご意見があった旨を伝えさせていただきます。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。他にご意見はありますでしょうか。

- **タパ委員**：53 ページに記載のある神奈川らしいコミュニティスクールの導入に関して質問させてください。K P Iにもコミュニティスクールに指定した県立高校数というものが設定されていますが、2019 年までに全県立高校で実施することが目標となっています。あと3年なのですが、本当に全県立高校で実施できるのでしょうか。また、そもそもコミュニティスクールの導入による地域の新たなコミュニティの核となる学校づくりとは、どのような内容なのでしょうか。ご説明いただければと思います。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。事務局いかがでしょうか。
- **杉山総合政策課長**：総合戦略を策定した時において、2016 年までに5校、2017 年までに25校、2018 年までに75校、2019 年までに全ての県立高校に指定するという目標値を設定しました。コミュニティスクールは、地域の住民や保護者と協力して、よりよい授業を実現する地域に開かれた、地域と共にある学校づくりをしていくということで進めており、非常に重要なものだと思っております。今回2016 年までの目標が5校の指定となっていて実績値も5校ということで、今後も当初の目標を達成するべく取り組んでいく予定であると受け止めております。
- **牛山部会長**：タパ委員、よろしいでしょうか。目標値の設定が5校からということは、コミュニティスクールを増やしていくという中で、モデル的な事業という意味合いもあるのでしょうか。
- **蓑宮委員**：コミュニティスクールではどういうことをやっているのでしょうか。
- **杉山総合政策課長**：学校はこれまで学校関係者だけで運営するという要素が強いものでありました。もちろんP T Aや地域の方々にも参加いただいておりますが、今後はより後者の要素を強めていく、地域とつながりながら、地域に支えてもらいながら学校を運営していくという取組みとなっています。
- **牛山部会長**：他にはいかがでしょうか。林田委員お願いします。
- **林田委員**：49 ページに記載のある「日ごろから健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている人」の割合について、2016 年の実績値が71.2%ということなのですが、目標値に対する達成率が89%というのも問題だとは思いますが、K P Iの一覧には2014 年の実績値が74.1%と記載があって、2016 年は2014 年よりも値が低くなってしまっています。このことについて、県としては原因をどのようにお考えなのでしょうか。また、52 ページの空き家に関するK P Iについてなのですが、これは空家等対策計画を策定した市町村数となっていて、2019 年の目標値が13市町村のところ、2016 年の実績値が9市町村なので、このまま順調にいけば目標を達成する可能性が高いと思います。来年度以降の話かもしれませんが、空き家対策としてどれだけ有効であつ

たのかという点が次の KPI の話として出てくるのかなと思いましたので、検討いただければと思います。

- **牛山部会長**：それではご質問について、事務局からお願いいたします。
- **杉山総合計画課長**：まず一つ目のご質問で、「日頃から健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている人」の割合が下がったことについて、現時点で詳細な原因を把握しておりません。明確ではありませんが、健康に関心な人たち、特に若い層へどのようにアプローチしていくのかを考えていく必要があると思います。例えば、未病の取り組みをしていますので、その取組みをより進めていくためには、無関心層の方たちに日頃から健康をしっかりと考えてもらう、そういう人たちが増えていきませんと、神奈川県としても健康長寿を目指しておりますので、ここは非常に重要な指標であると我々としても受け止めています。さらなる分析を進めながら、今いただいたご意見を踏まえ、関係部局と連携しながら考えて、次の行動へ移っていく必要があると思います。もう一つ、空家等対策計画を策定した市町村の累計数が K P I となっていますが、その先にどのような効果があったのかというのは重要な論点でありまして、昨年度から議論している K P I のあり方に通じる問題だと思います。今回の総合戦略では、2019 年の目標を達成すべく取組みを進めていくこととなりますけれども、次期総合戦略をつくる際にはどのような K P I が良いのかについて、検討する必要があると思います。あわせて、今回の総合戦略を策定していくなかで、昨年度末に K P I を追加させていただきましたけれども、K P I のあるべき姿、どの程度のアウトカムが良いのか、あるいは数値目標の水準を設定する仕方などについて、もし可能であれば、是非、皆様と一緒に検討させていただければと考えております。以上です。
- **牛山部会長**：いかがでしょうか。はい、どうぞ。
- **蓑宮委員**：今の若い人は、朝しっかり起きていないと思います。韓国のように国民全体で行う体操ができないかなと思います。昔はラジオ体操をしましたけれども、県民体操、AKB の何とか体操のような、3分から5分くらいで楽しくできる体操を朝に行って成功している神奈川県内の自治体はないのでしょうか。成功している自治体をモデルにすれば、朝しっかり起きるようになり、「日頃から健康に気をつけた規則正しい生活を心がけている人の割合」が増えていくのではないかと思います。
- **杉山総合計画課長**：どの市町村というところまでは把握しておりませんが、運動習慣をしっかりと行っていくことは良い話ですし、本県の未病の取組みとして、「食」、「運動」、「社会参加」としており、「運動」は重要であると捉えています。昨年、神奈川県スポーツ振興指針を策定しましたので、そうした中で県民の皆様が日頃から健康に気をつけながら、運動習慣を身に着けることが重要だと考えております。
- **蓑宮委員**：引き続き研究をお願いしたいと思います。

- **牛山部会長**：ありがとうございます。未病を改善する環境づくりは、以前から色々なご意見をいただいて、目標を達成できなかった、日頃から健康に気をつけて規則正しい生活を心がけていない人。は、私もそうかもしれません。例えば、年をとると健康には気をつけているけれども規則正しい生活ができないとか、朝早く起きていても深夜まで働いている人がいればその人はかなりきつい、ということもあると思います。K P Iの目標は良いとして、未病という考え方を先程のマグカルもそうですけれども、もっと全県的に県民へ理解を深めていくことが大切なのではないかと思います。未病状態を改善することがどういうことなのか分かってくると、「日頃から健康に気をつけた規則正しい生活」をしないといけないということが分かってくるのかなと思います。マグカルもそうですけれども、県民理解の増進といったところが、未病についても必要だと思います。他にはどうでしょうか。

- **平位委員**：55 ページの交通ネットワークの充実の中で、「要望活動を実施」という記載が何か所かありますが、これは県が行ったのでしょうか、それとも個人が行ったのでしょうか。要望というのは個人よりも公共団体などが実施した方が効果は高いと思います。また、今後の課題と対応方向の欄に「要望」という文言を入れていただくと、さらに取組みが前進しやすいかと思います。要望というのはすごく大事だと思います。

- **杉山総合政策課長**：こちらに記載している要望については、例えば、新東名高速道路の関係やリニア中央新幹線、東海道新幹線などを推進するための協議会や規制同盟会などを関係団体と設置しており、そのような場所で国に要望しております。また、今後の課題と対応方向についてですが、「推進」という文言には「要望」の意味も含めて記載しておりますので、敢えて「要望」という文言を特出しするかということについては、部局と調整したいと思います。

- **平位委員**：取組みを推進するのであればと思い、申し上げさせていただきました。また、要望の主体は個人ではなく協議会などということでもよろしいでしょうか。わかりました、ありがとうございます。

- **牛山部会長**：他にはいかがでしょうか。関委員どうぞ。

- **関委員**：次回に向けてK P Iのあり方を考えるという話とも関連すると思うのですが、K P Iとして設定した指標以外について、例えば「特別養護老人ホーム整備床数」などがありますが、この数値がどういう位置づけなのかということが、数値だけではわかりづらいです。K P Iについては、後ろに一覧として毎年の変動や目標値が記載してありますが、それ以外の指標についても、数値の意味するところがわかる資料がもう少しあると評価もしやすいと思います。もう1点、交付金の資料で、「高齢になっても活躍できる社会づくり」のところで、「シルバーベンチャーワークショップ等参

加者数」の達成率が低いけれど、内容、実質的などところでK P I 達成に有効だったと評価されていて、それはそうだなと思いました。そうすると、他のものは達成率を指標としていたと思いますが、どういった時に達成率以外の要素をみてK P I 達成に有効だったと判断するのかということ、もう少し整理していただくと良いかと思いました。

- **杉山総合政策課長**：K P I の議論については、地方創生以外でもかながわグランドデザインでご議論いただいておりますが、現状設定したK P I については、総合戦略を策定した際にそれぞれのK P I がどういうものかということに記載しておりますが、それ以外についてもわかりやすくしてほしいというご指摘かと思っております。県が総合戦略を策定し、地方創生に取り組んでいるのは、何と云っても県民の皆様のためです。より県民の皆様によりわかりやすく伝わるのかということについては追及していきたいと思っておりますし、是非この会の中でもご助言をいただければと思っております。また、交付金の関係では、達成率が低いものの評価については、私の補足説明によりご理解いただけたということなのだと思いますが、説明が無くてもわかるようにする方がより良いのではないかとご指摘かと思っておりますので、次にまた資料の修正をする機会もありますので、工夫していきたいと思っております。
- **関委員**：何も説明しないほうが良いという訳でもなく、説明するのであれば、うまく記載していただく、また追加説明が不要になるような指標など明確化したほうが良いと思っております。
- **山崎委員**：基本目標4の55ページについて、基本目標2にも関連しますが、先ほど平位委員もお話しされましたが、「道路の渋滞がないなど、自動車で県内各地へスムーズに移動できること」に関する県民ニーズ調査の満足度というK P I について、渋滞が無くスムーズに移動できることと運転者にストレスが掛からないということも含まれていると思っております。一方で、基本目標2の33ページですが、三浦半島で実施しているサイクリイベントなどにより域内周遊性を向上させたり、三浦半島自転車半島宣言など設定して、三浦半島にサイクリストが訪れております。三浦半島を訪れていただいた方はお分かりだと思いますが、道が非常に狭く、危険な場所が多いので、運転者が非常にストレスを感じ、比例して事故も多いという現状です。この取り組みが進むことによって逆に基本目標4の自動車というK P I が下がってしまうのではと感じました。他の項目にもこういった関連性があるのかなと感じました。
- **杉山総合政策課長**：総合戦略を策定するにあたりそれぞれの施策、小柱ごとのK P I について全体として整合性がとれるように設定させていただきましたが、自動車の運転手のストレスとサイクリストの関係については、ご指摘の観点もあると思っておりますので、関連部局に伝達してまいります。県民の方が神奈川に住んで心地よいという気持ちを追求していくことが地方創生だと思いますし、一方で神奈川に来ていただいたサイクリストの方が神奈川にもう一回行って三浦半島を一周したいという気持ちになっ

ていただきたいと両面あるものです。こういったものを具体的に、より安全に取組めるかを検討してまいります。

- **山崎委員**：関連して、陸に関して交通の問題があるということから、海のルートとして、海洋ツーリズムとして相模湾にシーレーンを設けようということも動き出しています。それらと連携することにより、三浦半島がより魅力的になると思います。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。以前からご指摘いただいている点ですが、引き続き考慮していただきたいと思います。
- **柏木委員**：54 ページのバリアフリーのまちづくりのさらなる促進が課題とありますので、先ほど蓑宮委員からもありましたが、車椅子の通行や、ベビーカーでの移動など、駅にエレベーターなどが設置はされていますが、改札口から遠かったり、遠回りだったりと不便な配置とすることが多いです。自身が体調不良などの時に、エレベーターなどを利用しますが、結果、倍くらいの距離を移動したこともありました。こういった検討もお願いしたいと思います。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。目標値までもう少しというところですが、バリアフリーが実感出来るような施策を進めていただけるよう検討をお願いします。それでは、他にご意見が無いようでしたら、先ほど同様に基本目標4について皆様のご意見を踏まえまして、まとめさせていただきます。県の一次評価では、順調であるが2つ、概ね順調であるが4つです。皆様からは評価そのものを変更するご意見はございませんでしたので、一次評価どおり、概ね順調であるという評価でよろしいかと思えます。そして、バリアフリーについては県民が実感出来るような、あるいはモデルとしてバリアフリーが実感できる道路について検討していただく。未病については、県民への周知をより一層していただくことや、評価の結果についてももう少し分かりやすいようにKPIのあり方などを部会からの意見として付記してまいります。また、交付金についても、特段の評価についてのご意見はいただきませんでしたので、一次評価のとおり有効であったとします。よろしいでしょうか。
- **全委員**：異議なし。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。皆様からいただいたご意見につきまして、事務局と整理をし、部会長である私と事務局で調整し評価報告書案を作成させていただきます。よろしいでしょうか。
- **全委員**：異議なし。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。本日の議事はこれをもって終了とさせていただきます。事務局から何かございますでしょうか。

- **杉山総合政策課長**：内容について補足させていただきます。資料2、評価報告書の9ページです。「推進会議による総合評価を記載します。」とありますが、本日の皆様からのご意見と、もう1つの部会の議論を踏まえながら、全体としての評価をこちらに記載してまいります。また56ページです。地方創生の取組みというものは、県だけで行うものではなく、地域に密着している市町村と連携し、事業に取組まなければ、本来の意味での地方創生にならないという懸念がございましたので、県民の皆様にも明確にお示しするために新たに設けたページでございます。本年6月ですが、「県・市町村間行財政システム改革推進協議会 地方創生部会」という会議において、市町村のご担当者様と昨年度の取組みや国が地方創生の情動的支援としている「RESAS」を活用した意見交換などを行いました。また、地域毎の地域県政総合センターとも連携し取組んでまいりたいと考えております。

3 閉会

- **中島総合政策課副課長**：本日は活発なご議論ありがとうございました。先ほど部会長からもありましたが、本日また、もう1つの評価部会（7日）での意見を集約し、座長と評価報告書を取りまとめてまいります。また、9月の県議会へも報告を予定しております。次回の推進会議は10月～11月頃を予定しており、2016年度の評価の確定を行いたいと考えております。本日は、誠にありがとうございました。

 - **牛山部会長**：ありがとうございました。それでは本日の部会を閉会させていただきます。ご協力・ご審議ありがとうございました。
-